

平成11年度 東海・北陸地区国立学校等技術専門職員研修
(生物・生命科学コース)に参加して

山本 みどり (技術部第一技術系第一班)

平成11年度東海・北陸地区国立学校等技術専門職員研修(生物・生命科学コース)が8月31日から9月3の4日間にわたり、静岡大学で開催されました。1日目は物理・化学コースと合同で、大学行政上の諸問題、人事行政上の諸問題、人事事務上の課題、環境問題への対応と4つの講義を受講した。環境問題への対応では静岡大学らしい話題の提供で富士山の環境保護に関する研究をされている先生の講義で、遠くから見るときれいな富士山であるが、その裾野のあまりの広さのために不法行為が防ぎきれないという現在の厳しい状況をスライドを使って、わかりやすく説明して頂いた。順を追っての説明であったので、生物系での研究の進め方というものがよく理解でき、その研究を進める手順の考え方は他の分野でも応用が効くものと思った。

2日目からは物理・化学コースと分かれ生物・生命科学コース(25名受講)の研修が始り、三重大学からは生物資源学部と工学部より1名ずつ参加した。静岡大学技術専門官による先輩講話では、単分子膜とLB膜作成について研究された時のお話しが中心で、自分の仕事と直接関係のあるお話しが聞けるとは予想外であった。農学部の先生方による講義ではそれぞれの研究対象に対して熱意と愛情をもって研究されているということが伝わってきた。なかでも「花が飛んだりするはなし」では、研究対象であるシンピジウムが胡蝶蘭に人気を奪われたことへの悔しさを、ひょうきんに語られた。これらの花を見たらきっと静岡大学での研修を思い出すだろう。

3日目は一日中実習で、「大腸菌におけるGFP遺伝子の導入及び発現」を選択した。まずGFPが何であるか分からなかったので同じ実習を受ける方に、GFPとはGreen Fluorescent Proteinであることなど、いろいろ説明して頂いた。当分子素材工学科の宮嶋先生の最終講義で見た光るカイコのスライドを思い出した。この実習は私には大変難しく、指導書を読んでも、説明を受けても理解できず、隣のベテランの人を見よう見まねで何とか終えた。他のコースを選んだ人もかなり難しかったらしい。

4日目は午前講義、午後工場見学(サッポロビール静岡工場)というスケジュールであった。講義「生命科学とバイオ技術」では、バイオ技術の基礎から早足で学んだ。クローンカエルを考えた人がいて、実行した人がいて、さまざまな技術が確立されていった過程が良く分かった。研修終了数日後の新聞に、ある種の物質に反応して光るカエルの写真が載っていた。ものすごいスピードで発展している分野であることをあらためて実感した。今回の研修では静岡大学職員会館を宿舎として利用させていただき、4日間を一緒に過ごしお互いの仕事のことなどいろいろな話を伺うことができとても有意義な研修でした。